

近世京都近郊の村と百姓

佛教大学研究叢書2

尾脇 秀和 著

▶ A5判・288頁／定価5,040円 (税5%込) ISBN978-4-7842-1731-1

2014年2月刊行予定

本書では、京都近郊に位置し、公家・寺院領を中心とする相給村落であった山城国乙訓郡石見上里村（現・京都市西京区大原野石見、上里）と、同村百姓にして公家家来でもあり、庄屋・医師・手習師匠としても活動した大島家を研究対象にとりあげる。

建前と実態という「表裏」の運用により、社会の「穏便」を実現しようとする意識や調整に着目して、近世百姓の変容と実態を多面的に明らかにする。

◎予定内容目次◎

序章 本書の研究視角と構成

- 第一節 本書の問題関心——「表裏」の運用と「穏便」
- 第二節 研究史の整理と課題
- 第三節 本書の構成

第I部 石見上里村の変容

第一章 相給支配構造と株百姓の実態

- 第一節 村落状況と構造の概要
- 第二節 土地状況の実態
- 第三節 百姓の所持地と帰属
- 第四節 株百姓の維持・調整

第二章 文政期の村方騒動と百姓の老人兩名

- 第一節 六右衛門一件の発生とその背景
- 第二節 「老人兩名」の吟味
- 第三節 百姓の帰属
- 第四節 「老人兩名」の発生理由と意味

第三章 村役人層の変容

——「家記」編纂の意識とその社会的背景

- 第一節 安田家と小野家
- 第二節 元右衛門一件とその後の混乱
- 第三節 文政期の村方騒動と庄屋利左衛門の再登場
- 第四節 過去の回顧と現実

第II部 大島家の変容

第四章 大島家の老人兩名

——大島家来大島数馬と百姓利左衛門

- 第一節 老人兩名の形成
- 第二節 老人兩名の実態
- 第三節 老人兩名の意識

第五章 大島家の学芸活用

- 第一節 大島家の修学活動と態度
- 第二節 手習師匠の活動
- 第三節 日常と遊芸

第六章 在方医師の活動実態

- 第一節 医療活動の背景と展開
- 第二節 往診範囲の具体相
- 第三節 「療用」と「療用之序」の交流

第七章 在方医師と村——変死隠蔽事件を事例として

- 第一節 村による変死隠蔽
- 第二節 株庄屋家の変死隠蔽
- 第三節 医師の役割

終章 まとめと課題

付論 大島家の病と地域の医療

- 第一節 天明・寛政期における家族の病
- 第二節 文政期・継嗣武幸の病
- 第三節 治療と看病——大島直良の晩年と息子直珍

おわき・ひでかず…1983年京都府生。佛教大学文学部史学科卒業、佛教大学大学院文学研究科博士後期課程修了、博士(文学)。現在、佛教大学総合研究所特別研究員。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行: 思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	近世京都近郊の村と百姓		本体4,800円(税別)	ISBN978-4-7842-1731-1
お名前			tel		
			e-mail		
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い)				
				本書HPのQRコード	書店番線印

中近世農業史の再解釈 『清良記』の研究

伏見元嘉著

農戦国末期伊予の軍記『清良記』全30巻を分析。その著者および成立年代を確定し、日本最古の農書とされる第7巻「親民鑑月集」の位置づけを明かす。近世農業の始まりとしての農書という定説をくつがえし、中世農業の最終段階をはじめて詳説したと位置づけ直す。

【内容】『清良記』をめぐって／軍記『清良記』の検証／軍記の検証からみえるもの／「第七巻」の検証／「第七巻」いわゆる「農書」としての疑義／圃持制度と「本百姓」の成立／「水田稲作」の再見／中世・近世前期「農術」の展開 他

▶A5判・424頁／定価 8,190円

ISBN978-4-7842-1562-1

※近世社会と百姓成立 構造論的研究

渡邊忠司著

佛教大学研究叢書 1

近世社会において零細な高持百姓はいかにして自らの生活や農耕の日常を凌いでいたのか、経営の自立と再生産を可能としていた「条件」は何であったのか。近世社会における「百姓成立」について、領主権力による「成立」の構造を再検証し、百姓の観点から百姓自らが創出した「成立」の条件と構造を年貢負担と村内の組編成、質入の検討により解明。



▶A5判・310頁／定価 6,825円

ISBN978-4-7842-1340-5

畿内の豪農経営と地域社会

渡辺尚志編

18世紀末以降、河内国丹南郡岡村（現藤井寺市）の庄屋を世襲した豪農・地方名望家が岡田家であり、近世・近代において同家が作成・授受した「岡田家文書」は、1万数千点にもおよぶ。近年整理が進められている岡田家文書を多角的に分析し、畿内における村落と豪農の特質を経済・社会構造の観点から解明する。



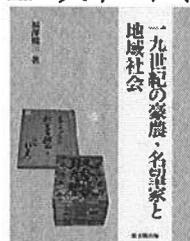
▶A5判・508頁／定価 8,190円

ISBN978-4-7842-1385-6

一九世紀の豪農・ 名望家と地域社会

福澤徹三著

19世紀の豪農・名望家と地域社会の関係を総合的に検討することにより、近代・近代移行期の特質を解明するための地域社会論の提起を目指す。中核的豪農と一般豪農の経営レベルの比較、金融活動の分析を中心に、畿内・信濃の地域間比較の視点も加え、その生業・営為を近世・近代を通じて明らかにする。



▶A5判・330頁／定価 6,300円

ISBN978-4-7842-1642-0

老農・中井太一郎と農民たちの近代

大島佐知子著

農業近代化の過程で重要な役割を果たした「老農」といわれた農事改良者たちは近代化のなかで忘れられた存在である。除草機「太一車」の発明者として知られる中井太一郎について、ライフヒストリーを丹念にたどりながら、彼の技術・思想や、その全国巡回を支えた組織・団体などを明らかにする。

▶A5判・380頁／定価 7,875円

ISBN978-4-7842-1710-6

※中世・近世の村と地域社会

西村幸信著

大和を中心とした中世・近世の村落構造についての諸論考を集成。第一には、村落中間層のあり方に注目し、学界で支配的な「自力の村」論に真っ向から異論を唱えたものなど主要論文を収め、第二部では、松波勘十郎と郡山藩領についての新発見など『広陵町史』近世篇に結実した業績を収める。2006年若くして逝去した著者の遺稿集。

▶A5判・404頁／定価 6,510円

ISBN978-4-7842-1353-5

歴史の中の都市と村落社会

田中喜男編

【内容】I 城下町の構造 近世中後期城下町論／近世城下町・在町と農村 他／II 交通・流通 日光社参における小山御殿／鎌倉の内湊町「飯島」と港国「和賀江津」／近世後期における商品流通と問屋経営 他／III 思想・技術 明治初年「越前護法大一揆」の町・村民の連携関係 他／IV 城柵・所領経営 東大寺領越中国鳴戸荘の立地と開発 他

▶A5判・458頁／定価 6,825円

ISBN4-7842-0853-4

京都・大枝の歴史と文化

村井康彦編

「大枝」は桓武天皇長岡京造営にはじまる古い歴史を有し、山城・丹波に通じる交通の要衝である。「大枝」の古代から近代までを論じる10篇。

【内容】大枝風土記への招待(村井康彦)／大枝の自然環境(金田章裕)／老ノ坂と古道(足利健亮)／大枝の曙(永田信一)／国境の里(瀧浪貞子)／動乱期の大枝(下坂守)／近代化の光と影(飛鳥井雅道) 他

▶A5判・380頁／定価 6,090円

ISBN4-7842-0633-7

近代日本と地域振興 京都府の近代

高久嶺之介著

近代日本の地域社会の姿を、京都府下における、明治前期の京都宮津間車道の開鑿・明治前期～中期にかけての琵琶湖疏水と鴨川運河の開鑿・明治初期～昭和の敗戦直後までの天橋立の保存とその振興・明治初期～昭和の敗戦直後にかけての童仙房村の開拓、という特定のテーマを取り上げ、地域振興の視点から考察する。

▶A5判・364頁／定価 6,825円

ISBN978-4-7842-1570-6

※丹後地域史へのいざない

上田純一編

歴史を「地域」の視点から見つめ直そうという関心の高まりつつある中、古来より独自の歴史や文化が生まれ育まれてきた京都府下の丹後半島地域を総體的に解明する試み。政治・経済史的観点からだけでなく、地域住民の視点から、そして彼らの抱いていた歴史的な帰属意識や時代心理の分野にまで言及した全7篇を収録。

▶46判・184頁／定価 1,680円

ISBN978-4-7842-1348-1

日本産業技術史事典

日本産業技術史学会編

明治維新以降めざましい発展を遂げ、近代化の歩みを支えた産業技術の変遷を跡づける。23の大項目と344の小項目で系統的・組織的に日本の産業技術史を俯瞰した画期的な読む事典。近代化以前からの「草の根」における技術と技能の蓄積対しても光を当て、民間の「現場」の力を重視する。

▶B5判・550頁／定価 12,600円

ISBN978-4-7842-1345-0

黒正巖著作集 [全7巻]

黒正巖著作集編集委員会編

1920年～40年代、社会経済史学の誕生に大きな役割を果たした黒正巖の業績を全7巻構成で明らかにする

【構成】①百姓一揆の研究／②百姓一揆論／③岡山藩の研究／④社会経済史の研究／⑤経済地理学の研究／⑥日本経済史／⑦農史の研究・年譜・著作目録

▶A5判・総2800頁／定価 58,800円

ISBN4-7842-1122-5

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。